



191

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2023年12月31日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

新年企画 コモンエイジ・公共のかたち

デジタル化 行き詰まる地方自治体

31日(日)=1、3面

夏のDigi田(デジでん) 甲子園表彰式に臨む岸田文雄首相



人口減少時代の切り札とされるデジタル化。岸田文雄政権は「デジタル田園都市国家構想」を掲げ、地域のデジタル・トランスフォーメーション(DX)支援を続けていますが、全国のけん引役として選ばれた自治体の事業が各地で行き詰まっ

ています。現場を歩いて見えてきたのは、国や首長が描く構想と、住民ニーズとの「ずれ」でした。新年企画では、人口減少や価値観の多様化が急速に進む中、日本の「公共」のあり方を問いかけます。

パリ五輪・パラ 注目選手は

1月1日(月)=元旦別刷り



バレーボール男子パリ五輪予選で、スパイクを決めて喜ぶ石川選手

パリ・オリンピック・パラリンピックが7～9月に迫りました。パリでの五輪は100年ぶりで、セーヌ川など世界的観光名所が会場となります。準備が進む現地の様子や、強化に励む日本選手たちを

紹介します。フロントページは、実力急上昇のバレーボール男子日本代表を率いる石川祐希主将です。1972年ミュンヘン五輪以来のメダル獲得が期待されるチームの大黒柱の意気込みを届けます。



遮音社会

他者への「ミュート」が生むひずみ

現代の私たちは情報過多の渦に飲み込まれないようにするあまり、尊重すべき他者の声に耳を塞ぎながら生きていないでしょうか。違った意見や多様な見方にこそお互いを分かり合うきっかけがあるの

1月1日(月) 11、社会面
に、遮音(ミュート)することで誤解や分断が広がり、息苦しい社会になっていきます。解決の糸口はどこにあるのでしょうか。ひずみが現れている現場をたどりました。

論点 2024年 世界はどうなる 1月5日(金)=オピニオン面

戦火が絶えません。国際政治学者で熊本県立大の白石隆理事長は「世界の秩序が壊れつつある」と警鐘を鳴らします。米国内での分断の深まりや、ロシアの帝国主義、中国の大

国主義化と米中の競争の激化など複合的な結果として、世界システムが機能不全に陥っていると指摘します。不信感が増幅すると過剰な反応が起こりがちです。そのためには、成

果を求めなくとも、誤解が無いように話し合っただけでも続けることが重要だと提言します。



皆様、年越しはどう過ごしますか？
毎日新聞で連載中のコラム「月刊のん」で、俳優ののんさんが年越しについて語ってくれました。
アニメ「ポケモンコンシェルジュ」で、主人公の声を務めたのんさんは、寝ないでポケモンのゲームをする予定だとか。コラムは毎日新聞ニュースサイトでも掲載中です。ぜひご覧ください。
それでは皆様、よいお年を。(坂井友子)

